

⑥7 「DX体験」を通じたインフラDX推進への取り組み

受賞機関 国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所

キーワード 人材育成、インフラDX、担い手確保、広報戦略、働き方改革

全建賞審査委員会の評価ポイント

北陸インフラDX人材育成センターのDXルームを広く一般に開放した「DX体験」を運営するとともに、出張DXルームの開催や高校生向け体験と災害対策機械見学のセット実施等の工夫により、公共事業への理解の促進と建設業界の担い手確保に貢献し、オンライン受付等により運営の効率化も図った点が評価された。

1. はじめに

北陸インフラDX人材育成センターは、北陸地方の建設業界におけるインフラDXの推進と、それを担う人材の育成を目的として、令和6年3月に新潟市西区の北陸技術事務所に開所した。北陸技術事務所では、施設に設けられた「DXルーム」を広く一般に開放し、「DX体験」として運営している。

2. 事業の概要

DX体験では、一般の方にも親しんでいただけるよう、わかりやすく、なじみやすい技術に加え、遠隔操縦式バックホウの実演見学や高校生向けの3Dモデル操作体験（CIM体験）等を導入した。また、DX体験を効果的かつ効率的に運営するため、出張DXルームの開催、高校生向けDX体験と災害対策機械見学のセット開催、オンライン受付システムの導入や運営マニュアルの作成等の新たな取組を行った。



出張DXルーム

3. 事業の成果

DX体験には、令和6年3月の開所以来、国土交通省をはじめとする行政機関の職員、民間企業の関係者、大学生、高校生、未就学児を含む多くの方にご来場いただいた。インフラ分野に関わる方だけでなく、一般の方にも多数ご来場いただき、各種会議、研修、工事安全対策協議会や学校の総合学習等にも活用され、令和7年10月には来場者数が1,000名に達した。

来場者アンケートでは、90%を超える方から「体験・見学で土木の仕事に対するイメージが向上した」との回答を得たほか、「土木職の難しさを知ったと同時にありがたさを感じた」、「（遠隔操縦式バックホウの実演見学で）離れた場所から操作できることは、災害時に有用だと感じた」等の感想も寄せられており、公共事業への理解・信頼の向上につながった。

また、高校生のアンケートでは「今回の体験も踏まえて、建設関係で働くことに興味を持った」、「様々な技術が集まって人々の暮らしを支えている」、「建設業がすごく楽しくて働きたいと思った」等の感想が寄せられ、建設業界で働く意義を感じてもらうことができ、担い手確保の課題の解決に大きく貢献した。



災害対策用機械見学

4. おわりに

北陸インフラDX人材育成センターは、インフラ分野におけるDX推進を担う人材の育成を目的に開所し、同センターの中核的な取組であるDX体験は、建設分野のDX技術に気軽に触れ、関心を持ってもらう「入口」としての役割を果たしている。

今後も、建設業界はもちろん、将来の建設現場を支える幅広い世代の方々に、DX技術への理解を深め、親しみを持ってもらい、インフラDX人材の育成や建設業界の担い手確保につなげることを目指している。また、DX体験の内容を更に充実させながら、より魅力的で実効性のあるプログラムづくりと運営に取り組んでいく。

賛助会員 開発技建(株)